

地域連携NEWS

渚野辺総合病院
メディカルサポートセンター医療連携課



* 新年のご挨拶 *

あけましておめでとうございます。

今年は、医療にとって大変重要な年となります。

働き方改革問題を皮切りに、2024年診療報酬トリプル改定、翌年はずいに2025年になつてしまいます。

今後も、感染症・高齢者救急対策にも、更に取り組んでいかななくてはならず、そんな中、物価高騰・賃金上昇に、充分対応できるような施策がとられなければ、ますます病院の現場は疲弊してしまいます。政策に期待していきたいと思います。

また、かかりつけ医機能の制度整備などを盛り込んだ改正医療法などが、参議院本会議で可決成立され、施行は2025年4月とされています。

「身近な地域における日常的な診療、疾病の予防のための措置、その他の医療の提供を行う機能」と明記した。かかりつけ医機能を持つ医療機関は、時間外診療の可否などを都道府県に報告することとなっています。後付けになったその定義が議論されていますが、内容によっては実現不可能なものになったり、緩すぎて意味を持たないものになる可能性もあり、注視が必要です。

いろいろな意味で、今年は大きな変革があり、更に地域一体となった連携・協働が必要で、それに向けて尽力していきたいと思います。



医療法人社団 相和会
理事長 土屋 敦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年5月に第5類に格下げとなった「新型コロナ」ですが、その勢いはやや弱まったとはいえ、まだ脅威であることは確かです。治療薬が開発されない限り、これからの人類は、この変異を続ける「コロナウイルス」の脅威に晒され続けると思われます。

インフルエンザも年末年始恒例行事ではなく、一年中感染するようになりました。

今年は、渚野辺総合病院では、コロナのために中止せざるを得なかった、いくつかの改築を進める予定です。来年の検診センターの移転を視野に入れ、20床の増床も計画しています。自然の驚異の中で、4月からの「医師の働き方改革」も念頭に置きながら、地域の皆様に優れた医療を提供できる病院となれるよう、さらに邁進していきたいと思つています。



渚野辺総合病院
病院長 世良田 和幸

謹んで新春のお祝い申し上げます。

長らく猛威を振るったコロナ感染症もようやく落ち着きつつあり、何よりも医療者側がその対応に慣れて参りました。

一方でコロナへの対応にいち早く順応できた医療機関と、なかなか変われなかった医療機関の間である種の格差が広がったようにも思われます。この数年で柔軟に変わり続けることの大切さを痛感しました。湊野辺総合病院も多くの困難を抱えたままの年明けではありますが、皆様方との連携をより強固にして、利用しやすく求められる病院に変わっていきたいと考えています。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



湊野辺総合病院
副院長
メディカルサポートセンター長
小池 幸宏

2024年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、当院の診療に対してご理解、ご協力をいただきありがとうございました。

今年も春の診療報酬の改定、解決の糸口が見いだせない少子高齢化、物価高や世界情勢などなど不安定要素が尽きない時代ですが、職員一丸となり常に地域の皆様から信頼される病院であり続けることを目標に努めてまいりたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



湊野辺総合病院
副院長 阿部 典文

あけましておめでとうございます。新年を迎え謹んで年頭のご挨拶申し上げます。

本格的な少子・超高齢社会に入り、医療・看護の現場では地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築の重要性がますます加速しています。コロナ禍で培ってきた地域の医療・行政・施設等の繋がりを活かして、前に進んでいくことが求められていると思います。

当院でも入退院支援をはじめ、歯科連携、地域連携・在宅医療等、地域の方々の健康の維持増進と共に、必要な時に医療・看護が切れ目なく、タイムリーに提供できるよう、皆様と連携し取り組んでいるところです。

今年も地域の皆様と共に考え、連携しながら、信頼される医療・看護の実践に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



湊野辺総合病院
副院長
看護部長 横井 弥生

